中学生海外研修2017

オーストラリア直送レポート

Vol.2 2015.8.14　いざ初登校

●ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課・林
吉備中学校・田中

●パーマストン校・ローズベリー校グループ／教育委員会社会教育課・松場
金屋中学校・中

ドリップストーン校グループ

DS校登校初日を迎えました。オーストラリアダーウイン市は研修生の登校初日を祝うかのように晴天でした。DS校に着いて、数名の研修生に開口一番、「元気？」「ホストファミリーは、優しい、上手くいっている？」と研修生達が気になるので、矢継ぎ早に質問をしました。すると研修生からは、「元気」「ホストファミリーはすごく優しい人」「色々話をした」との答えが返ってきました。また、別の研修生に質問すると「寝る時間が早くて驚いた」や「夕食のチキンカレーがとても美味しかった」との話も聞けました。ひとまず研修生達が、元気でホストファミリーと上手くいっている事や、早速日本での週末の過ごし方との違いを体験出来ているようで安心しました。しかし、疲れとホストファミリーの優しさに安心して気が緩んだのか、忘れものをしている研修生も見受けられたので、気を引き締め名をするように促しました。今回、DS校での研修生の担当をして下さるのは、エマ先生です。そのエマ先生から今日一日のスケジュールが研修生に発表されると、リラックスしていた研修生も少し緊張した表情になりました。なぜなら、有田川町で行ってきた事前研修（全七回）で練習してきた英語による１分間スピーチと日本文

化の紹介（剣道、、空手、ソーラン節）を、いよいよDS校全校生徒の前で披露する時がきたからです。研修生達が、ウエルカムパーティーの会場に行く直前まで、１分間スピーチのメモを読み返している様子をみているとこちらまで緊張してきました。ウエルカムパーティーが始まると、DS校長のピーター先生が、DS校と姉妹校の吉備中学生が今年も来てくれましたとの紹介を頂きました。また、エマ先生は去年、一昨年とDS校の生徒を引率されて有田川町に短期留学いらしていたので、有田川町の素晴らしさや吉備中学校の様子なども紹介を頂きました。待ちに待った研修生の研修の成果を披露する時が訪れました。１分間スピーチでは、緊張して早口になるのではとの心配をしていましたが、DS校生の温かい雰囲気もあり研修生達は、笑顔で１分間スピーチを行いました。また、剣道、空手、ソーラン節の日本文化の紹介を行うと会場には大きな歓声が起こりました。ウエルカムパーティーを無事にやり遂げた研修生の表情からは、安ど感と達成感を感じました。ウエルカムパーティーを終えて研修生と歩いていると、廊下でDS校の生徒が空手のマネやソーラン節の振付をマネしいる様子を見かけました。その時、DS校長のピーター先生とエマ先生が話してくれたDS校になぜ日本から研修生がくるのか、そしてやってきた日本の研修生がしっかり文化を伝えて、日本や有田川町に興味をもってもらう。その事が、今後の交流を続ける上でいかに重要なのかを感じました。昼からは、二班に分かれて美術、体育、柔道、PC、演劇の授業に参加しました。研修生達は、英語が分からない中でも、ランチタイムなどで仲良くなったDS校生徒、笑顔で授業に参加していました。まだ、授業を見学している私たちに、聞きにくることもありますが、それぞれがそれぞれのペースで、オーストラリアと言う異国の地での生活に順応しているように思いました。明日は、今日よりも多くのDS校生徒コミュニケーションをはかり、多くの経験をしてくれることを望みます。（林）

初めての登校。朝出会うとすぐに、「タベたのしかった」と私たちを出迎えてくれて、こちらも元気をもらえました。朝の集会で見て頂くために、空手、剣道、ソーランを練習してきました。そのうち２人が悲しい顔で、木刀と空手道着を「ホストの家に忘れてきてしまった」と・・・。でもすぐにDS校の先生方が動いて下さり、柔道着１着と木刀に変わる木製のスティックを探して、探して、探して、見つけてくれました。発表の少し前で下が、息を切らせて、走って持ってきて下さった姿に私たち皆感動しました。そんな温かい思いを頂けた後の、一人一人の自己紹介スピーチの素晴らしかったこと。集まってくれた全校生徒の前で、ゆっくりと、はっきりと、相手の顔を見ながら、班のを確認しながら話せていました。決して完全な発音ではなかったかもしれませんが、一生懸命聞いて下さるようすを見ると、大事な時はオーストラリアも日本もおなじだな思いました。研修で、準備で苦労して練習してきました。彼らの練習に付き合って下さった林さんや松場さんの一生懸命さに、一生懸命な思いで１つ恩返しができたかなと思いました。本当に頑張りました。私たちの事を考え計画して下さった授業は、多くのオーストラリアの生徒さんと触れ合えるもので、みんなの表情が明るくなっていくのが嬉しかったです。明日からも楽しみになりました。単なる旅

行でなく実際の学校で授業を受けさせてもらえる事は凄いことだなと改めて思いました。明日こそは、もっともっとみんなから質問をしたり、進んで志願できるよう応援したいと思います。私にとってもこの研修は１０年ぶりくらいの機会です。懐かしい先生方が声をかけて下さり、ハグをして下さいました。一期一会、人って温かいなあ、出会いって素晴らしいと思いました。生徒の皆さんにとって、そんな大切な研修に出来るようお手伝いしていきたいと思います。（田中）

パーマストン校・ローズベリー校グループ

天気は晴れ。朝は清々しい涼しさを感じる気候である。７時３０分に宿泊していたホテルを出発、８時にパーマストン校に到着する。校門を近くで、ホストファミリーの車で送られてきた研修生に出会う。ホストファミリーが笑顔で見送っている様子がとても印象的に感じる。校庭に入ると、屋根のあるベンチに研修生が集まっていた。研修生それぞれに声をかけながら、昨日の出来事や体調の具合を確認をする。研修生曰く『トラブル続出！』などと昨日の出来事を振り返る子や、『朝飯めっちゃ多かった』『夜さむかった』『ホストファミリーが優しい』『プールで泳いだ』とのこと。皆、楽しそうに話す。昨日の”心の風景”を研修生から回収するが、書いていない子がいる為、注意をしたうえで提出を促す。パーマストン校の引率教諭である、河合先生に今日一日の行程を確認してから、体育館で行われる予定の歓迎全校集会に向かう。研修生たちは、『何時からはじまるん？』と言いながら、待ち時間に緊張した様子で１分間スピーチの練習を行う。８時２０分全校集会が始まる。引率職員の紹介を終えた後、いよいよ研修生それぞれ自己紹介を行う。大勢の生徒達が見守る中、研修生達は精一杯の１分間スピーチをおこなう。その後は研修生全員でソーラン節の出し物を行う。それぞれ無事に終えた後、感想を尋ねると『めっちゃ緊張した』と。２番目の行程である、ワイルド・ライフ・パークに向かう。３０分ほどスクールバスで、移動したのち、到着する。スクールバスの車内では、昨日の出来事を友達同士で和やかに話している。道中、森林が焼け焦げた跡や、アリ塚、広大な大地にまっすぐに延びる道を見た研修生からは、『（アリ塚の事）あれは何ですか？』『こんなバイクで走ったら気持ちいいやろなあ』などと、引率者に対する質問や、感嘆の言葉があった。目的地である、ワイルドライフパークに到着後は、バードショーや、エイの餌付の様子、昼食を含めて、午後２時ごろまでの時間を過ごす。途中、分からない英単語を辞書で調べている子がいたのには驚いた。持参のデジカメに思い思いの写真を残している。午後２時過ぎに、出発地であるパーマストン校に戻る。その後、それぞれのホストファミリーのお迎えを確認して２日目の研修行程を終えた。”１分間スピーチ”と”ソーラン節”は事前研修から

練習していたこともあって、研修生一同、不安と緊張感も含めて”最大の山場”との印象があった。結果、多くのパーマストン校の生徒達の前で、練習を含めて一番の出来具合であったように感じた。特に、出し物である”ソーラン節”は、４校の中学校が混ざり合うパーマストン・ローズベリー校の研修団の中で、練習の機会も限られるなど、十分な取り組み及び準備ができなかった感は否めなかった。その中で、精一杯の演技を行っていた研修生を称えたいと思う。その他、本日の行程では、オーストラリア特有の生物や、気候、食事、そして言葉や文字を通して日本との違いなどを肌で感じていたように思った。今後の改善点としては、研修生として、何かをしてもらう側、いわば受け身になっている様子が幾度も見受けられた。例えば、昼食の際の準備などは、同行していたパーマストン校の生徒は率先して水分や食事をいれたクーラーボックスを運んでいたが、研修生達は言われるまで何もしない上に、お礼の一言も言えていない等の様子があったのは非常に残念に感じた。そのため研修生全員に対して、『ありがとうございました』などの感謝の気持ちや一言をきちんと伝えるように促した。パーク内のトレインやスクールバスでの移動の車内で眠っている子どもも多く、昨日までの長距離移動や、慣れない生活習慣、言葉、食事、そして暑い気候などで疲れが蓄積しているようにも感じられた。それぞれの研修生に聞きとった様子からはホストファミリーとのトラブルは発生していないようであるため、明日から始まる本格的な英語レッスンや授業参加に向けて、引き続き研修生全員のフォローを引率者一同で行う事としたい。（松場）

学校訪問初日の今日は、歓迎セレモニーではこれまで練習してきた紹介スピーチとソーラン節をパーマストンシニアカレッジの皆さんにお披露目することができました。たくさんの学生に見守られ緊張感が伝わってくる中、これまでとは違い発音を意識した発表ができ大きな拍手を貰いました。発表後は、一安心という表情が見てとれました。ワイルドライフパークでは、皆さん何にでも興味を持ってワラビーやクロコダイルに触れ合っていました。また、英語で説明を受けると「英語分からん」と言いながらも「今、ポイズンって言ってたな」という風に分かる単語を拾い出そうとする学習への意欲の高さと、その単語が分かったという事が喜びとなっているように感じました。ランチでは、ホストファミリーとの生活について話してくれ、各々楽しく生活できていることを知りホッとしています。英語が分からないながらも学ぼうとする姿勢をそのままに、数日の間で積極的に自分から話して交流してくれればと思います。この5日間の最後に、「帰りたくない！」と思える程に自分から新しい道を切り開いていける様、私もお手伝いしていきたいです。（中）